

# NIEを通して、自分自身の考えをもち、発信する生徒の育成

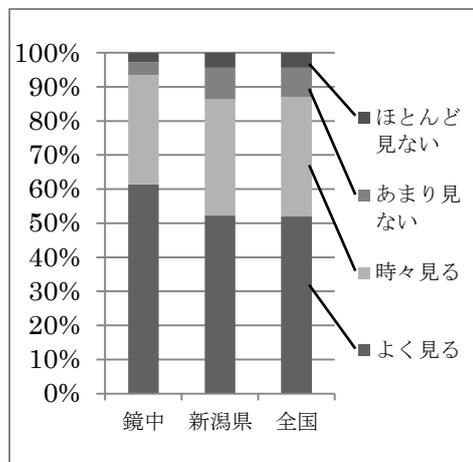
柏崎市立鏡が沖中学校

## 1 NIE 実践のねらい

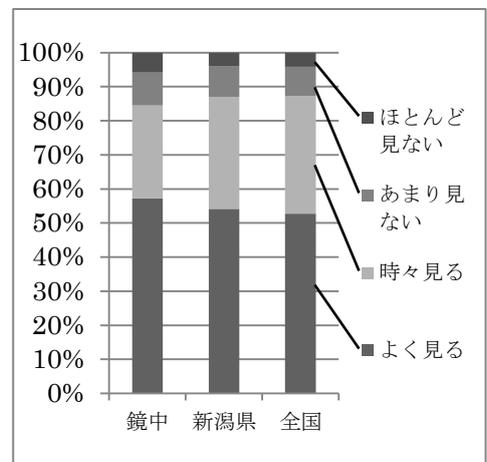
### (1) 生徒の実態と課題

全国学力・学習状況調査の結果から、平成 29 年度と平成 30 年度の本校 3 年生の実態を比較すると、「TV のニュース番組やインターネット、携帯などでニュースを見るか」という質問では、「よく見る」「時々見る」という生徒の割合が、昨年度の 93.6 パーセントに対し

今年度は 84.5 パーセントとなり、ニュースを見る生徒の割合がやや下がった。それでも、おおよそ、県や全国の平均と同じくらいである。



平成 29 年度 3 年生

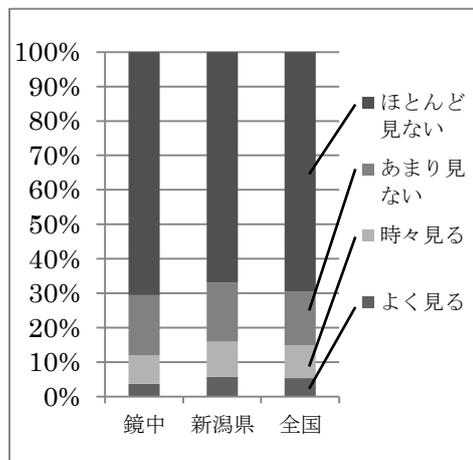


平成 30 年度 3 年生

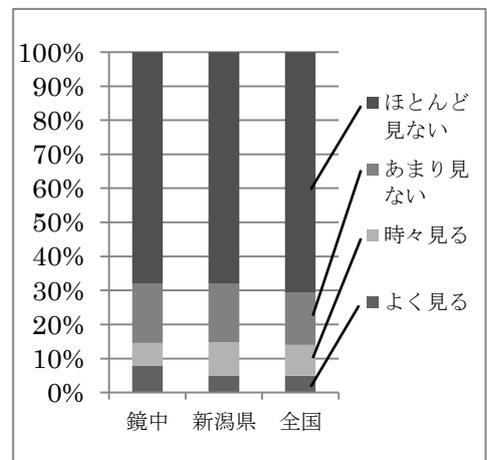
あなたは TV のニュース番組や、インターネット、携帯などでニュースを見ますか。

次に、「新聞を読んでいるか」という質問では、「よく見る」と答えた生徒が、昨年度の 3.7 パーセントに対して今年度は 7.8 パーセントと、倍以上となった。それでも

「ほとんど見ない」という生徒が 68 パーセントで依然として多く、新聞を読む習慣がない生徒が大半を占めた。



平成 29 年度 3 年生



平成 30 年度 3 年生

あなたは新聞を読んでいますか。

## (2) 校内研修とNIEとの関連

本校では今年度の校内研修の研究主題を「自立を目指し，人間関係形成力を高めようとする生徒の育成 ～学び合い，振り返る活動を丁寧に行う自尊感情育成に向けた取組～」としている。これを受けNIEでは，新聞活用をもとに自分の考えを深め，周りに発信する活動を展開することで「学び合い」を実現していく。また，生徒が自らの考えを周りに発信し，その思いが周りに受け入れられ，認められる体験を多く重ねることで，「自尊感情育成」を目指したい。そして最終的に，新聞記事を通して社会的事象への関心を高め，社会の一員としてよりよく生きようとする意欲を高めていきたい。

## (3) NIEを通して，生徒に身に付けさせたい力

昨年度・今年度の2か年の実践を通して，生徒に身に付けさせたい力は次の通りである。

### ① 思考力

- ア 社会への関心をもち，必要な情報を収集する力
- イ 記事や論述をもとに，自らの考えを深める力
- ウ これからの社会をよりよくしていくための手だてを考える力

### ② 表現力・発信力

- ア 自分の意見を整理し，筋道を立てて説明する力
- イ 自分の意見を効果的に伝えるために工夫する力
- ウ 周りの人の意見を聴き，感想や良い点などを具体的な言葉で表現し伝える力

## (4) 授業における手だて

授業においては，以下の3つの手だてを意識した実践を行った。

### ① 主体的・対話的で深い学びの実践

学習内容を深く理解し，これからの時代に求められる資質・能力を身に付けるために，「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を意識して，授業の展開を考えていく。

### ② 互いの意見の共有化や自分の意見の再構築化

話し合い活動の際にホワイトボード等を活用して，互いの意見の共有化を図る。さらに自分の意見を再構築化することで，深い学びを目指す。

### ③ 自尊感情の育成

授業の中での気づきや感想を交流する場面を意図的に設定し，互いの考えや思い，課題に向かう姿勢を共有することで，自尊感情を高めていく。

## 2 本年度実践の概要

生徒が新聞に親しみ，興味関心が高められるように，以下の3つのプロジェクトを立ち上げ，実践した。

### (1) 授業実践プロジェクト

各教科で新聞を活用した授業を実践した。実践した授業については、「実践した教科」、「授業のねらい」、「使用した記事・社名・日付」、「指導の要点」を記録した。授業の導入で、学習内容への興味・関心を高めるために活用したり、展開で新聞記事について自分の考えを深めるために新聞を用いたりした。特定の新聞社の記事を用いるだけでなく、同じ内容について複数の新聞社の記事を比較し、検討するような授業実践も行った。また、校内研修の研究主題にせまるための手だて（①主体的・対話的で深い学びの実践、②互いの意見の共有化や自分の意見の再構築化、③自尊感情の育成）を授業の中で意図的に設定・実践することを積み重ねた。



### (2) 閲覧プロジェクト

各学年の廊下スペースで閲覧できるコーナーを用意した。木材を購入して閲覧台を手作りし、新聞を見開きで閲覧できる木製の台を、各スペースに2つずつ設置した。情報発信プロジェクトによる取組の効果もあり、休み時間に新聞に触れる生徒が多く見られた。その後、1階生徒玄関脇スペースにカラーボックスを使ってバックナンバーを置き、他誌との比較もできるようにしている。



### (3) 情報発信プロジェクト

各クラスの班単位で新聞を読み、気になる記事について考えをコメント欄に書いて廊下の掲示コーナーに掲示した。生徒会本部役員が全クラスの記事とコメント欄を読んで「今週のチューモク大賞」を決定し、昼の校内放送で発表し、生徒朝会で表彰した。大賞作品は特別スペースに掲示し、全校生徒が注目するように工夫した。生徒会本部の役員が、注目大賞を選ぶ観点として、「感想だけでなく、自分たちの考えを書いていること」を大切にしているため、回を追うごとにコメント欄の記事が充実し、活動の質が高まってきている。



### 3 授業実践の概要

#### (1) 第1学年3組 総合的な学習の時間

##### ① 題材名

防災学習 ～災害の記事をまとめ、自分たちに出来ることを考えよう～

##### ② 本時のねらい

ア 生徒同士で関わり合いながら、災害の記事をまとめることができる。

イ 「災害が起きる前にできること」、「災害が起きてからできること」について考えることができる。

##### ③ 本時の展開

時間	○学習活動 ・生徒の反応	○教師の支援 ●留意点	※評価 (方法)
導入 5分	○ねらいを説明し、これからどのような活動をしていくか説明した。		
	災害の記事をまとめ、自分たちに出来ることを考えよう		
展開 35分	<p>○2人組または3人組で、災害の記事から状況を読み取り、ホワイトボードにまとめた。</p> <p>○「災害が起きる前にできること」または「災害が起きてからできること」をホワイトボードにまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このニュース知ってる！</li> <li>・自分にもできそう！</li> <li>・自分にはちょっと・・・。</li> <li>・同じようなことばかり。</li> </ul> <p>○ホワイトボードを黒板に貼り、生徒の考えを共有した。</p> <p>共有した主な視点 ・人命救助について ・土砂などの片づけ ・避難所での支援</p>	<p>○各組に1日分の新聞を配った。</p> <p>○1人は災害の状況をホワイトボードに書くように、もう1人は自分たちにできることを考えるよう指示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活動がスムーズに進むよう、役割分担をしっかりとさせた。</li> <li>●手が止まっている生徒に声をかけ、いろいろな新聞記事に触れるよう支援した。</li> <li>●予備の新聞を用意しておいた。</li> <li>●生徒の感性を大切に、生徒から発言させるようにした。</li> <li>●考えを共有しながら、なぜできると考えたか、できないと感じたかを聞くようにした。</li> </ul>	<p>※関わり合いながら活動していたか (見とり)</p> <p>※自分の考えをもっていたか。(見とり)</p> <p>※他者の発表を聞いていたか。(見とり)</p>
終末 10分	<p>○今日の授業を振り返り、「自分たちに出来そうなこと」を記入した。</p> <p>○授業の感想を書いた。</p> 	<p>○ワークシートを配った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自分自身のことについてしっかりと書かせた。</li> <li>●しっかりと授業の振り返りをさせた。</li> </ul>	<p>※新聞を読むことの良さに気付くことができたか。(見とり、ワークシート)</p> <p>※自分たちに出来ることがあることに気付いたか。(見とり、ワークシート)</p>

<p>○今日見た記事の中で一番印象に残っているものを発表した。</p> <p>○今後の授業についての簡単な説明を聞いた。</p>	<p>○自分の目的とは違った記事にも触れることができることは新聞の良さであることを伝えた。</p> <p>○こういった経験が感性を豊かにしていくことを伝えた。</p> <p>○実際に災害ボランティアとして活動した人の話を聞ける機会があることを伝えた。</p>	
--	---	--

## (2) 第2学年3組 社会科

### ① 単元名

日本の諸地域「中部地方」 （「新潟日報」平成30年9月27日，ほか多数）

### ② 本時のねらい

大地の芸術祭がなぜ多くの人々を魅了するのかということについて，新聞を活用して情報を獲得し，学び合いの中で他者の意見を取り入れながら，大地の芸術祭がなぜ多くの人々を魅了するのかを自分の考えとして説明することができる。

### ③ 本時の展開（5/6本時）

時間	学習活動・内容	教師の働きかけと留意点
導入 5分	<p>○前時を振り返り，大地の芸術祭が多くの人々を動員し，長年にわたって続いていることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年から始まったんだ。</li> <li>・今年の期間は54万人もの人々が来たんだ。</li> <li>・地域全体で行われていたんだ。</li> </ul>	<p>○電子黒板で前時の記事を紹介するなど，視覚的に振り返った。</p> <p>○授業の流れを提示した（UDL）</p>
	<p>◎大地の芸術祭は，なぜ長くにわたって続けられ，たくさんの人々を魅了するのだろうか。</p>	
展開1 20分	<p>○班で役割を分担し，どの番号の記事について情報を集めてくるか決めた。</p> <p>○様々な新聞記事を読んで，課題解決に迫る情報を集めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この記事には，新潟空港からの交通網のことが書いてある。</li> <li>・この記事によると，外国人の観光客が1割もいるようだ。</li> <li>・この記事には，オブジェなどの展示だけでなく，米を使った実食体験や農家とレストランのコラボなどの企画が人気だったことが書いてある。</li> </ul>	<p>○大地の芸術祭に関する新聞記事を15種類ほど準備し，ナンバリングして掲示しておいた。</p> <p>○分担された記事の場所へ移動して個人で持つ付箋にメモを取るように促した。</p> <p>○時間で区切り，なるべく多くの記事に触れて考えを広げられるように指示した。</p>
展開2 15分	<p>○班に戻って，持ち寄った情報を紹介し合ってグルーピングしてラベリングした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの情報は，「交通網」でまとめられそうだ。</li> <li>・これらは，「情報発信」でまとめられる。</li> </ul>	<p>○模造紙，マーカーペンを準備した。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これらは、「自然環境」でまとめられる。</li> <li>・これらは「食」でまとめられる。</li> </ul> <p>○班ごとに全体で発表して情報やグルーピングの視点を共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の班のグルーピングよりも具体的にまとめてある。</li> <li>・あの班の視点は、自分の班では出なかった。</li> <li>・あの意見の根拠となる新聞記事を読んでみたい。</li> </ul>	<p>○時間をみていくつかの班に説明してもらった。</p> <p>○ホワイトボードに模造紙を貼り、前面に掲示して班の司会に発表させた。</p>
終末 10分	<p>○自分の考えをまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多雪や、山がちな地形という地域の弱みを生かし、米や棚田といった観光資源をPRしつつ、その地域の人に触れる体験を取り入れた。それに加えて、SNSによって国内外の観光客増加につなげたことや、空港からの交通網を整備することで、様々な地域から人を呼ぶことに成功した。</li> </ul> <p>○自分の考えを他者に説明した。</p> <p>○振り返りを記入した。</p>	 <p>○何人かに指名して発表させた。</p>

### (3) 第3学年2組 道徳科

#### ① 主題名と資料

「人間愛」

「マザー・テレサ受け継がれる愛」 （「読売新聞」平成29年9月9日）

#### ② 本時のねらい

新聞記事に掲載されている人やマザー・テレサの言葉を考えることで、お互いに愛情をもって接することの大切さに気付き、これからの自分の生活に生かすことができる。

#### ③ 本時の展開

	◎学習活動    ○生徒の反応	・教師の働きかけ
マザー・テレサとは、どんなことをした人物なのだろう。大見出しに「マザー・テレサ受け継がれる愛」とあるがなぜだろう。	<p>◎マザー・テレサをもう少し知るために動画を視聴した。</p> <p>○生前のマザー・テレサを見るのは初めてであり興味深く視聴した。</p> <p>◎配付された新聞記事の説明及び範読を聞きながら記事の内容を理解した。</p> <p>○熱心に範読を聞くが道徳的価値をすぐには理解できなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板準備。</li> <li>・短い動画と予告した。</li> <li>・新聞記事とワークシート配付、記事範読。</li> <li>・後ほど取材された3名の言葉について考えることを予告した。</li> </ul>
マザー・テレサが開設した施設「死を待つ人の家」にボランティアが後を絶た	<p>◎ 記事に出てくる3名の方の言葉をマークした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問1 記事に出てくる3人の言葉から考えよう</p> </div> <p>◎ 1に付き、2班が考えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大した記事を掲示しマークした。</li> <li>・誰の言葉を考えるかを決めた。</li> </ul>

<p>ないのはなぜだろう。 3人の言葉から考えよう。</p> <p>マザー・テレサ本人が残した言葉に触れよう。</p>	<p>A スペイン人公務員フランシスコ・ハビエルさん 「与える側だと思っていたけれど、それ以上のものを与えてもらった。」 与えてもらったものとは何だろう？ ○患者の笑顔 ○感謝やありがとうの言葉 ○自分の価値 ○自信 ○自分が必要とされているという気持ち など</p> <p>B 北京の通訳業「チェンインシュ」さん（ここに来る前、頭にあったのは仕事とお金を稼ぐことばかり） 「生きる意味を教えられている気がした。」 教えられた生きる意味とは何だろう？ ○小さいことでも心をこめること ○お金や仕事より大切なものがあること ○小さなことに感じる幸せ ○周りの人を愛すること ○助け合いながら生きる幸せ など</p> <p>C 施設長を務める修道尼「ニコル」さん 「活動を通じ、私たち自身がいろんなものを受け取っている。」 受け取っているものとは何だろう？ ○患者さんからの愛情 ○感謝の心 ○感謝される喜び ○自分にとって必要なもの ○人生で何が大切か</p> <p>◎A→B→C の順にホワイトボードをもって黒板前で発表し、黒板に掲示した。他の生徒は、発表を聞きながら担当以外の言葉についてワークシートに記入した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>補助発問 3人に共通しているものを見つけよう</p> </div> <p>○相手から受け取っていると感じる心 ○お世話することで大切なことに気付いた</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>中心発問 マザー・テレサの思いや愛が受け継がれ広がり続けるのはなぜ？</p> </div> <p>◎ワークシートに自分の考えを記入した。 ◎数名発表した。</p>	<p>・ホワイトボードを使用した話し合い活動の準備。 ・時間配分に注意させた。おおよそ個人3分 班での話し合いとホワイトボード記入8分 発表6分 計17分の配分 発表後元の教室隊形に戻した</p> <p>・ホワイトボードの内容を確認し3人に共通している、「お世話している方が、実は与えられたり、受け取ったりしている」という道徳的価値に触れた。</p>
---	--	---

	<p>◎動画「涙が出るマザー・テレサ」の名言集を視聴した。</p> <p>○ほとんどの生徒が集中して字幕を追って見た。</p> <p>【目指す姿】マザー・テレサが実践し残していった人間愛の精神は、国や身分・職業を超え、私たち人間にとって、どれだけ尊く大切なものであるかに気付く。そして、その愛はけっして特別なものではなく自分自身が、身近な人に向けることができることに気付く。</p>	<p>・電子黒板準備</p> <p>6分14秒の動画</p> <p>・自分なりの答えがまとめられない場合は3名のボランティアの言葉の「何か」の部分も参考にできると補足した。</p>
<p>本時の学びをまとめよう。</p>	<p>まとめ 今日授業で学んだことやこれからの生活に生かしたいことを心の足跡に記入しよう。</p> <p>◎本時の学びや気づきの内容を「心の足跡」に記入した。</p>	<p>・回収した。</p>

#### 4 成果

昨年度、今年度、3つのプロジェクトを実践した後、生徒にアンケートをとった。その結果、下のグラフのようになった。

「新聞を読む機会が以前より増えた」と肯定的に答えている生徒は、昨年度の47パーセントに対して、今年度は44パーセントで、やや下がった。授業実践や情報発信のプロジェクトの活動で、生徒が必然的に新聞に触れる機会は多かったが、閲覧コーナーによる日常的に新聞に親しむ工夫が足りなかった。

「掲示物を見て、新聞への関心が高まったか」という質問に対して、昨年度も今年度も、65パーセントの生徒が肯定的な評価であった。情報発信プロジェクトによる「今週のチューモク」に加え、生徒会の活動と連携した「〇〇委員会のチューモク」など新しい取組で活動を充実させることができた。

「新聞記事を使った授業は楽しい、考えを深められた」と答えた生徒は、ともに80パーセント以上となり、2ヶ年の授業実践が生徒の学習意欲喚起につながった。NIE実践・研究委嘱は今年度で終了するが、今後も各教科で実践を積み重ね、生徒の「考え、発信する」力を伸ばしていきたい。

- ① 9月から12月で、新聞を読む機会が以前より増えましたか
  - ② 校内に掲示されている新聞記事などを見て、新聞への関心が高まりましたか
  - ③ 今年度、新聞記事を使った授業は、楽しいと感じましたか
  - ④ 新聞記事を使った授業で、自分の考えを深めることができましたか

